



LD親の会「けやき」機関紙

第85号

2008年6月発行

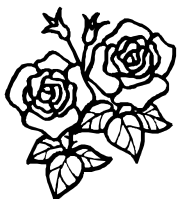
発行者・代表 三輪 覚子 〒198-0014 東京都青梅市大門 1-787-8
けやきホームページ URL <http://www.ne.jp/asahi/hp/keyaki/>

新年度のスタートにあたって 深め合い いきいきと

草花や木々の緑も生き生きと、初夏の装いを思わせる季節となりました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

「けやき」も4月26日の総会から平成20年度の活動がスタートいたしました。今年度も引き続き会長を務めることになりました。できる範囲ではありますが、私なりに頑張る覚悟しておりますので、皆様どうぞよろしく願いいたします。3年目となりますので、今までのように「はじめて」とか「知らなかった」という言い訳は通用しないぞ、というプレッシャーを感じているのも本音ではありますが、会員や関係機関そして子どもたちと関係を持ってくださいる多くの皆様方に、これまでと変わらぬ、またそれ以上のご助言・ご指導・ご協力をいただきながら、「けやき」の活動が活発に行われるよう、常に心がけていきたいと思っています。

総会でもお話しさせていただいたことですが、親の会とは、会長を頂点とした縦の関係ではなく、「親」という立場を同じくした人たちの集まった横の関係で、しかもそれが輪になってつながっているものだと思います。きれいな真ん丸ではないかも知れないけれど、その中の一人が疲れて座り込みそうになったら、両側の二人が握っている手に力を込めてくれると信じています。私自身も「会長」を一人で背負っているのではなく、両側（身近）に力強い役員さんたちの手を、いつも感じています。さらに、会員全員が「一人一役」に応じてくださり、役員の仕事を補助して下さっていることも頼もしく、感謝の気持ちでいっぱいです。



今年度「けやき」は、新たに12名の会員を迎えスタートをいたしました。例会や部会・グループで顔をあわせ、話し合いを重ね、理解を深めあいながら、いきいきと活動していきましょう。

再度、皆様よろしく願いいたします。

三輪 覚子

平成20年度・総会が開催されました

平成20年度・総会が4月26日(土)に東京都多摩障害者スポーツセンターにおいて開催されました。平成19年度活動報告、会計報告、会計監査報告が承認され、引き続き平成20年度活動方針の提案及び新役員の選出が行われました。

活動方針では自主グループ Wing (キャリア教育講座) が具体的にスタートするほか、今年で「けやき」が20周年を迎えることになり記念講演会と祝賀会が計画されるなど、盛りだくさんの内容でした。

活動方針

1. 会員活動が、さらに充実したものとなるように、例会の企画・運営、教育部会・就労部会・自主グループの支援に引き続き取り組みます。少人数や単発のグループでの活動も支援するとともに、お互いが意見を出しやすい話しやすい雰囲気での親の会となることを目指します。
2. 会員数を増やすための努力と活動を展開していきます。案内リーフレット、ホームページ、機関紙での宣伝はもとより、今までの「相談会」をより具体的に「入会説明会」として、活動内容等を分かりやすく説明し安心して入会してもらえるよう努力します。「相談」できる体制も引き続き設け、さらに充実できるよう計画します。
3. 創立20周年記念行事への取り組み
これまでの多くの先輩会員さんや関係していただいた方々の協力の賜物により、今の「けやき」に育ってきました。20周年の節目にあたり、9月例会を「けやき」の生みの親である上野一彦先生の記念講演会、及び20周年祝賀会として計画します。全会員の参加を目指して成功させましょう。

新役員紹介

会 長：三輪覚子	広 報：井上芳郎
副会長：井上芳郎	編 集：三輪高二 鈴木弥生 瀧澤妙子
就労部会代表・副会長：新堀和子	会計監査：室井和枝
教育部会代表・副会長：浅井優子	<自主グループ>
書 記：小形則子 光長信義	ポーレポーレ代表：赤野友子 二宮忍
会 計：清水京子 本多百合子	おやじの会代表：藤本 健
渉 外：藤本 健	けやき八王子代表：尾形扶美子
新堀紘太郎	Wing (キャリア教育講座)
鈴木弥生	代表：伊原文恵

例会・役員会開催予定

開催日	内容	時間	場所
4月26日(土)	総会	12:45~17:00	多摩障害者スポーツセンター
5月24日(土)	5月例会	13:30~16:30	くにたち福祉会館
6月28日(土)	役員会	14:00~17:00	多摩障害者スポーツセンター
7月19日(土)	7月例会	13:45~16:30	東京しごと財団セミナー室(飯田橋)
8月30日(土)	役員会	14:00~17:00	多摩障害者スポーツセンター
9月20日(土)	9月例会	13:45~17:00	こまばエミナース
10月25日(土)	役員会	14:00~17:00	未定
11月22日(土)	11月例会	13:45~17:00	未定
12月20日(土)	役員会	14:00~17:00	未定
1月24日(土)	1月例会	13:45~17:00	未定
2月28日(土)	役員会	14:00~17:00	未定
3月28日(土)	役員会	14:00~17:00	未定

※未定の会場は決まり次第順次お知らせいたします。

例会は、講師の都合に合わせて開催日を変更することがあります。

LD親の会「けやき」 20周年記念講演会・祝賀会

- ◎日時 平成20年9月20日(土)
 13:00 講演会受付
 ◇14:00~16:00 講演会
 16:00 祝賀会受付
 ◇17:00~19:00 祝賀会(立食式)

◎場所 こまばエミナース

◎講演会 講師 上野一彦先生
 (東京学芸大学教授・日本LD学会会長)

◎祝賀会 参加費5000円(一人)

奮ってご参加ください!今から予定を空けておきましょう



交流会の報告

総会の後に、昨年と同様、事前に選んだ希望のテーマ別にグループに分かれて交流する時間を持ちました。「できるだけ少人数で」との意見を踏まえて6～7人・4グループになりました。丁度お子さんの年齢が近いとか話題が同じという相手同士ですから、次々と発言があり、どのグループも活発に、そして内容の濃い交流となったようです。最後に各グループ代表の方にまとめを簡単に発表していただきました。

☆学校（中学生以下）グループ

お互いの自己紹介で交流を深めた。現在進行形の特別支援教育の現状が話題となり、それぞれのお子さんの様子を聞き比べるうちに、地域での格差が未だに大きいことがあらためてわかった。



☆学校（高校生以上）グループ

自己紹介を中心に、それぞれの学校の情報・病院の情報など盛りだくさんの内容となり、充実した交流となった。

☆就労グループ

自己紹介でそれぞれの就労に向けた思いを話し合った。職に就くことが最終目標ではなく、仕事をしながら生活していくことを考えるなら、手帳や年金の問題もある。また、コミュニケーション不足から前向きになれず、転職をした方の事例から、就労後のサポートの大切さも話題になった。

☆生活グループ・



成人したお子さんの会員からは、余暇や趣味を持つことにより、仕事を継続する力になり、生活を充実させるという意見が多かったが、学生のお子さんの会員からは、家での楽しみがゲームしかなく、深夜まで続けていて生活のリズムが乱れていることを心配する声があった。生活リズムの大切さ・一人暮らし(家を出る)にむけての課題・本人の認知(受け入れる)の必要性など多岐にわたる内容となった。 S.M記

ミニ・インフォメーション

東京LD親の会連絡会・自立生活研究会発行

「自立生活サポートチェック表」

例会の会場で販売しています。

親の会会員 500円/冊

外部の方 1000円/冊

自立をテーマに20才前後のLD等発達障害の人々が手帳のあるなしに関わらず、一人暮らしをするために必要なスキルは何かという事話し合い、チェックリストを作成しました。

東京LD親の会連絡会 講演会報告（1）

○日 時：2008年5月10日(土)
○会 場：東京ウィメンズプラザホール
○テーマ：「LD等発達障害児・者のライフステージを見据えた支援」
～それぞれの年代をより良く生きる～

ゴールデンウィーク明けの週末に行われた、LD等発達障害児・者の指導と支援についての講演会を聞いてまいりましたので報告させていただきます。

当日は冷たい雨にも拘らず、保護者、支援関連者、企業関係者などが大勢集まり、三名の講演者それぞれの視点から語られる、我々の子供たちを取り巻く現状、有効な支援方法、将来の就労や人生の捉え方などのお話に、熱心に聞き入っておりました。質疑応答では、聴講者それぞれの立場から、切実な質問なども投げかけられ、関係者が支援の運営や現状に苦労している様子を聞く事もでき、スタートしたばかりの特別支援教育の問題点や、進捗状況の地域格差など、決して順調な滑り出しをしている訳では無い事を改めて知る事となり、“現場で支援を必要としている子供達や我々家族の思いは、何処へぶつければ良いのだろうか”と、考えさせられました。

*演題：「勉強が出来ればよいのか」

講師：明星大学准教授・小貫 悟氏

講演の「ライフステージを見据えた支援」と言うテーマに沿い、我々の子供達が成長と共に、どの様な力をつけて行くのが望ましいのか、お話頂きました。発達障害児に於いては、“年齢が上がってから問題が表面化すること多い”とのお話がありました。勉強はそこそこできる為、社会の壁に遭遇してから、問題が表面化するケースが多く、スキル不足のまま大学生になっている、発達障害学生への対応が、急がれているとの事。その様な現状から、社会に出る為に様々なスキルを、教えておく必要があるとの事で、現在中学生の親である私も、“うかうかしてられない”と自分に言い聞かせた次第です。私がメモした幾つかの小貫氏の言葉を、明記しておきます。

*発達障害児は、経験から多くのストレスを持って成長している為、リラックスできる力が必要。1～2ヶ月では身に付かない力なので、幼年期から教えはじめる必要がある。

*障害（ハンディキャップ）とは＝不利な事。スキルを教える（身に付けさせる）事は＝対処方法を教える事。（自身の不利を軽減させる方法）

*選択させる場面で、工夫をするモデルを見せ、本人に工夫させる。（主体性が芽生える）

*ソーシャルスキル 社会性とは広範囲なイメージがあり、指導者の意思に左右され、体験から来ている事が多いので、直し難くバランスが悪い事がある。出来ない事を一気に直そうとせず、自分の癖として覚えておく。（方法を工夫する）

*ゲーム等のバーチャルでない、実体験の確保が重要。

等等など、色々なキーワードが、小貫氏から語られました。（次ページへつづく）

***演題：「思春期・青年期をどう乗りこえるか」**

講師：植草学園短期大学教授・山田 純子氏

中学生の親の私にとって、まさにタイムリーなトピックであり、興味深く聴かせていただきました。

思春期・青年期は、身体的、精神的に不安定になる時期で、家族や周囲とコミュニケーションをうまく取り、自分らしさや自分自身を理解して、本人が肯定的に受け止めて行けるよう、支援していく事が重要だとお話ありました。いつまでも子ども扱いでなく、子供の性的発達を認識する親の理解度も大切で、本人の居場所や役割を示し、自立と言うテーマを見据えたコミュニケーションが望まれるとの事でした。私自身もそうですが、どうしても親が手を出し過ぎてしまう傾向があるようです。その為にも、まず親が“障害の理解を肯定的にする”事が重要との話でした。山田氏の講演は、千葉の親の会での調査結果を基に進められ、会の活動に参加している人と、不参加の人とでは、様々な場面で認識の違いがあるようでした。また、療育手帳を取得する事をきっかけに、障害の説明を本人にしたケースが多いと示され、“悲観的に本人が受け取らぬ様、やり方を変えないと出来ない事を教え、出来なかった事を、出来る方向に導き、1%でも良いから成功体験を得ることで、自信を付けさせ、支援を受けながら自立を勧めていく重要性が示されました。親自身の障害観により、子供の現状が様々な事を聞き、私は、”自分自身はどうだろうか・・・？”と問いかけていました。

***演題：「働きつづけるために」**

講師：神奈川県立保健福祉大学教授・松為 信雄氏

最近読んだ発達障害に関する雑誌に、就労に関する全国実態調査が出ていたので、そこで得た情報と合わせて、興味深く聴かせていただきました。

雑誌では、調査結果から、以下の検討項目が示されていました。

- 全ての人に就労の可能性のある事を認識し、教育・指導を考える事が必要である。
- 離職に至るケースが多く、就労維持の為、就労後も数年間支援を行なう必要ある。
- 障害軽度の子供の場合、職場の障害理解、本人の仕事内容の理解など、その能力から、障害を理解してもらい働きかけが、疎かに成りがちであり、離職を多くしている。

松為氏の講演も同様に、“今企業は真剣に雇用に動いている”“就労を望む側も、企業の要求に応えられるだけのレベルで居ないと、就労に結びつかない”など、雇用現場の現況と、就労を望む側との温度差を語られ、生涯働き続ける為に、家族の支援方法、ネットワークの構築、地域支援の重要性など、“人生”と言う事と絡めてお話頂きました。

全ての講演を聴き終えて今私が思う事は、“スキル”“支援”“コミュニケーション”等等など、“発達障害”というテーマに則して語られ、考えてきたが、“障害”に限らず、現在の社会全般に考え、再検討していくべき事柄だと、強く感じています。そして、今回の数時間の講演参加が、“今自分自身が、何をすべきか？”を考える、良いきっかけになったと、しみじみ感じています。

J. S 記

東京LD親の会連絡会 講演会報告（2）

講演会に参加して

幼少時の脳疾患が原因で、学習障害（最近の障害区分では、高次脳機能障害の範疇）となった息子（20歳、大学生）を持つ保護者である。講演会は、学齢期から就労までの子供の成長を見据えて、勉強・思春期・就労と3つの講演で構成されており、密接に結び付く内容について、専門家の話が一度に聞ける良い機会であった。その中の小貫悟明星大学教授による「勉強が出来れば良いのか」は、講演会企画者による興味深い演題に答えるものであり、同年代の子供（青年）達より遅れ気味に勉学を継続している息子を持つ私にとり、最も興味深い内容であった。今までの息子の成長と親としての関わりを振り返り、小貫教授の講演の中から、「教育」と「自立を目指して家庭で行うことの指針」について、簡単に記したい。

自立に向けての教育について、ボトムアップとトップダウンの2つのアプローチが論じられていたが、前者は底上げ（将来、必ずしも直接役に立たない可能性のある内容を含む幅広い勉強）、後者は目的志向（目標を設定し、それに達するための勉強）と分類されていた。子育ての中で、漠然と自問していたことが、明確に仕分けられ、自分自身の考え方の整理に有意義な内容であった。このふたつは、二者択一的に簡単に割り切れるものではなく、講演者の結論は如何にと思いつながら聞いていたが、トップダウンを視野にいれてのボトムアップの方向性を挙げていた。通常、子供はボトムアップ的な広範な勉強を小学校から始め、成長の過程で自分の将来（自立）を見据えて勉強対象を絞っていくと思うが、息子の場合は、小学校段階の学習で躓き、学力の積み重ねが困難なまま学年だけ上がり、トップダウン的な方向性をなかなか見いだせないまま、現在に至っている。また、親として自立に必要な学力レベルについて、息子の小・中学時代には、最低限の「読み、書き、そろばん」と生きる過程で物事を考えるために必要な学力、を漠然と考えていたが、講演者は目安として小学4年生程度としていた。時間的・社会的・経済的制約があるなか、子供の成長と共に状況は変化し、個人差もあり難しい事柄であろう。本講演から、自立に向けて模索している現在の息子に対して、親の役割のひとつとして、ボトムアップ部分を充実させるためのサポートの意義への示唆を受けたように思う。

次に「自立を目指しての家庭で行うことの指針」として、「リラックスできることは能力」、「日頃の積み重ねは人生を豊かにする。あぜらず、目の前のことから」等、が挙げられていた。親としては、どうしてもできないことの克服に捉われ、忘れがちなことであったが、息子が人生を前向きに楽しく過ごすためにも、彼がリラックスできるように配慮することの重要性と、日々の積み重ねが将来につながるという基本的な部分を再認識させられた。

瀧澤松雄



就労部会

～就労部会の現状とこれから～

教育の世界では、特別支援教育が始まり幼児期から成人までの支援が始まりました。また、就労に関しては、東京障害者職業センター、ハローワーク、就労支援センターの取り組みも始まっています。一方、企業では雇用率達成のために特例子会社を創設し、障害者の雇用が年々増加しています。

このような時代を迎え、障害者の社会参加について考えていく取り組みが求められています。私たち親は目の前のわが子をどのように社会に出し、自立を目指すのかというイメージを持つことが大切でしょう。また、手帳のあるなしに関わらず、支援の受け方や支援のあり方を皆で考え求めていきたいと思います。

就職している方は、キャリアアップや就労継続について、これから就職を目指す方は、企業の考え方や就職までの準備などを知ることから。共通することは自立です。親亡き後にもわが子が、よりよい人生を送れるようもっとも近い親から学んでいく必要があると感じています。

就労部会代表・新堀和子

就業・生活支援センター 「オープナー」を見学し

5月20日に就労部会で、障害者の就業や生活上の支援をし、作業実習なども受け入れ継続的に支援しているという、国立市にある「オープナー」という施設を見学しました。施設長さんにお忙しい中、時間をとっていただき、いろいろなお話を伺うことができました。

いろいろな病名やタイプの方がたくさんいて、やる事がいっぱいあって大変だと思った。時間とお金、人手がいくらあっても足りないという感じがした。人に物を教える事、技術を身に付けさせる事など、人を育てるという事の難しさが解った。

再発もあるということで、病気になる前に予防が大事だと感じた。ならない為には、どうしたらよいのかを考えるべきだと思った。寮やグループホームがもっとあって、多くの方が入ることができたらよいのと思う。

自立のためにはよい勉強になると思う。キャンプ・夏季合宿・インターシップ・山村留学など、家から離れることによって大人に近付くことができるかもしれないと思った。環境の中に入れば、ならざるを得ないところも出てくるのではと思う。

建物のいたる所にマニュアルが貼ってあって、字も大きくて短文で解りやすく書かれていて理解しやすいと思った。小さい頃からのキャリアプランやカウンセリング教育が大切だと思った。

T.Y記

社会福祉法人・多摩棕櫚亭（シュロッテイ）協会 「オープナー」
ホームページ <http://shuro.jp>

■部会紹介・報告■

教育部会

教育部会は、小中学生の親を中心に活動していますが、“学校の勉強”だけをテーマにしているわけではありません。それぞれの子どものもつ困り感を知り、どのように対処すればよいのか、どうすれば知りたい情報が得られるのか、皆で知恵を出し合いながら活動しています。療育のこと、手帳や年金の取得、障がい配慮してくれる塾や学校、学校や先生との上手な付き合い方、趣味を含めた日々の生活の仕方、性について・・・本当にテーマは多岐にわたり、悩みはつきません。高校生親の方も何人か入会していらっしゃるの、アドバイスをいただいたり、就労部会の親の方に来ていただいてお話を伺ったりしています。

今年度は、未定の部分もありますが、“実際に顔を合わせて話をする”ということを中心にしていきたいと思っています。

<今年度の活動予定>

・ 4月12日(土)

年間計画作成

・ 6月14日(土)

サポートノート（子どもの生い立ち、療育記録、状態、どのような時どのような支援を受けたか等まとめておき、必要な時に外部の人に見せるもの）
原案作成

・ 7月12日(土)

昨年度まとめた「アンケート」をもとに進路（学校）についておしゃべり会

・ 10月

上記「アンケート」をもとに、進路以外のテーマでおしゃべり会

・ 11月 未定

・ 12月 親の忘年会

・ 2月 例会

・ 3月 未定

子どもの年齢にかかわらず興味のあるテーマがあれば、

どなたでも気軽にご参加ください。 教育部会代表・浅井優子

■自主グループ紹介・報告■

おやじの会

お父さんの子育てへの取組を考える自主グループです。これまで、懇親を深めて思うところを互いに話し合える環境作り(例会後の懇親会など)、子ども達(社会人講座OB)との交流、他の親の会との交流(親の会「くじら」のおやじの会との懇親会)などに務めてきました。今年度も一人でも多くのお父さんが参加していただける活動を目指しますが、更に一歩進めてお父さんが取り組める具体的なことを考えて行けたらと思っています。お母さんの参加も勿論歓迎です。お母さんを含めた「おやじ&○○○の会」のいい呼び方があればと思案中です。 藤本

■自主グループ紹介・報告■

ポーレポーレ

「ポーレポーレ」とはスワヒリ語で「ゆっくりゆっくり」の意味です。

「子どもたちの居心地の良い居場所になってほしい」という親の願いから、昭和60年から62年生まれの子どもの遊びの会として、熱心なボランティアの方たちのご協力を得て2000年3月にスタートしました。

現在は高校生から社会人（20代前半）のメンバーが、主に毎月第2日曜日に国立市の障害者スポーツセンターを拠点として、レクリエーション、スポーツ、調理などの様々な活動をボランティアの方たちと一緒にしています。

今年度は、メンバーがより主体的に活動できるように、戸外活動時の企画やそのための下調べなどを、担当者を決めて任せてみるという試みが始まっています。

<これからの予定>

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 6月29日（日） | 西武ドームで野球観戦 |
| 7月13日（日） | スポーツセンター体育館で各種スポーツ |
| 8月16日（土）~17日（日） | 恒例の夏の宿泊・今年は鎌倉観光です 赤野 |

けやき八王子

八王子グループは、小学校高学年から中学生の子どもを持つ親が集まってできたグループです。

八王子市南大沢地区を拠点として、地域での勉強会、地元大学生と子ども達の交流、施設・学校見学などを予定しています。

この地域では小学校低学年までにはよくあるソーシャルスキルを学ぶ場が、高学年以降になるとほとんどなくなってしまっている現状があります。思春期を迎える高学年以降も、そういった場を持ち、積み重ねてきたことを継続させて、進学・自立・就労に向けて子ども達の力を伸ばしていきたいと考えています。

<今年度の活動予定>

- | | | | |
|----|---------------|-------|------------|
| 4月 | 年間計画作成 | 11月 | 大学生との交流会実施 |
| 6月 | 大学生との交流会打ち合わせ | 12月以降 | 検討中 |
| 9月 | 親の勉強会 | | 尾形 |

Wing

自主グループ・キャリア教育講座「Wing」始動

昨年来、例会で案内をしてまいりました中学高校生向けキャリア教育講座「Wing(ウイング)」がこの5月11日の予備講座から始動いたしました。けやきは3年間にわたる「社会人講座」の実績をもち、今回は「自己理解」「自己有用感」「就労への意識付け」などの視点において参加者は大きな成長をとげております。今回はもっと早い段階、「療育」と「就労支援」の中間的な時期および発達段階にある「中高校生」が対象です。「仕事」を中心しつつも「生き方全体への支援」としての「キャリア教育」を目指したいと考えております。



申請しておりました「日本財団」「麒麟福祉財団」からの助成交付も決定しました。松為信雄教授を筆頭に職業リハビリテーション関係専門家・機関、教育関係者、企業、ボランティアの方々のご協力、ご指導のもと「保護者主体」の「自主的な」「企画立案、実行」をめざし、参加者全員で日夜奮闘しております。

参加者は親子18組、親のみ6名計42名での開始です。子供は12才から19才まで年齢の幅がありますが、5月17日に開催されました本人参加第1回の講座ではなごやかな雰囲気がかつ充実した内容とすることができました。初めて顔を合わせた者どおしが笑顔で会話をかわす風景もみられたり、今後の講座が楽しみとなる第1回でありました。

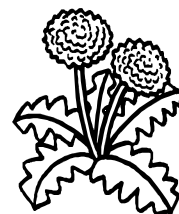
夏の合宿(第5回講座)に向け、料理教室・講話・職業センター訪問等今後も盛りだくさんの講座が用意されています。「企画・準備・実行」に忙しい毎日ではありますが、1年後の子供達の成長を楽しみに走っていきこうと一致団結する関係者たちであります。新しい企画で不行き届きな点もあるとは存じますが、どうぞ暖かいまなざしで子供達や若い会員さんを見守っていただきたいと思います。宜しくお願いいたします。

伊原



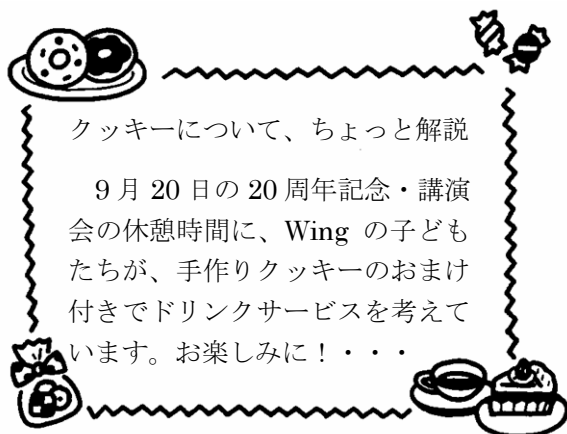
5月・例会が行われました

5月24日(土)に例会が行われました。当日は、新規会員になられた方も含めて多くの方々の参加を得ました。今回は、高校へ進学されたお子さんや就業しているお子さんのお母さん4名の方々に体験談をお話いただき、それぞれの子どもに合った進路について考える貴重な場となりました。



◇参加された方々のアンケートから一部感想をご紹介します。

◆わが子は就労して丸3年くらいたちました。一生懸命、教育・就職に取り組んでいる親の方たちの話を聞き、自分の取り組んだ教育・就職の事を思い出しました。わが子は特例子会社に就職し、ジョブコーチが付き働いている幸運を感じます。ただ、スキルアップを求められ、頑張って疲れて帰ってきます。これからまたいろいろな問題が出てくると思いますが、親が一生懸命に考え、一緒に乗り越えていけば開けてくると思います。



クッキーについて、ちょっと解説

9月20日の20周年記念・講演会の休憩時間に、Wingの子どもたちが、手作りクッキーのおまけ付きでドリンクサービスを考えています。お楽しみに！・・・

◆具体的な話しが聞けて、とてもよかったです。中3で受験なので、特にどのように高校を決めていたかというプロセスは、とても参考になりました。クッキーがおいしかったです。トライしてもよいのではないのでしょうか。

◆本当に入会してよかったと思いました。今まで相談できずに一人で抱えていたので、保護者の方のお話がとても参考になり、自分の考え方の狭さに気付かせていただきました。

◆わが家の息子は、20歳になりますが、今日の4人のお母様のお話は、今に通じるものがありました。とても参考になりました。子どもが成長して家族がひくところ、出るところ、むずかしさを感じます。

◆上妻さんのご自身の勤務先での精神の方の就職に関する話で、実は発達障害から精神障害になったのでは、ということが分かり考えさせられました。岡部さんや関口さんも表面上ではよく知らなかった親としての心配やご苦労が分かりました。栢野さんのお話にも感謝します。

◆私は映画の仕事を職業としている者ですが、5年ほど前出演者(女優)のお子さんがLDと聞き、その実情を知るや驚いた次第です。これは社会問題だと思っていまして、現在、LDやADHDについて勉強しているところです。今日のお母さんたちの話は身につまされ、本で読んでも実情がよく分かりませんでした。今日は学校生活や就職で悩み、子どもたちの苦しい姿がよく分かりました。本日はありがとうございました。

(賛助会員)

お知らせコーナー

6月役員会のお知らせ

日時 6月28日(土)
14:00~17:00
会場 多摩障害者スポーツセンター
第三集会室
JR 中央線国立駅南口より
無料バス有

※会員の方ならどなたでも参加できます。

話し合いの内容

- ・各担当、部、グループの報告
- ・7月例会企画
- ・20周年記念行事関係
- ・連絡 他

日本発達障害ネットワーク発行

発達障害児のための 「支援制度ガイドブック」

本書は、自閉症、LD、ADHD等発達障害のあるお子さんをお持ちの保護者や関係者が、各種の支援制度を探したり利用したりする際の参考にしていただけるように、現状利用できる支援制度を整理して極力分かりやすくまとめてあります。

平成19年度障害者保健福祉
推進事業の補助金をうけて、
2008年3月31日発行

けやき正会員で希望者には
7月例会にお渡しします。(無料)



■お知らせコーナー■

「NHK厚生文化事業団 福祉ビデオライブラリー」

2008年度 上期の目録が届いています。

NHKで放送した福祉関連の番組をビデオに複製し、無料で貸し出しているそうです。また、「ホスピス」「発達障害」など、NHK厚生事業団が製作したビデオも貸し出しています。(貸し出し中のビデオは約500タイトル)
福祉に関心のある方ならどなたでも利用できます。
福祉・医療研修や個人の学習などにも役立てることができます。

詳細、問い合わせは三輪まで

文部科学省委嘱事業

「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害者向けの 教材・教具の実証研究報告書」

2003年3月・全国LD親の会版
冊子を一部、けやきで保管しています。

詳細、問い合わせは三輪まで

「全国LD親の会」総会・研修会

日 時：6月21日(土) 12:00~13:00 総会
13:45~15:45 研修会「発達障害のある人の就労」
17:30~19:30 懇親会

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

2008年「全国LD親の会」青年の集い

集合時間：6月21日(土) 13:30~ (19:30 ころ解散予定)

集合場所：国立オリンピック記念総合青少年総合センター センター棟 409号室

参加費：6000円(入場料、懇親費含む)

参加資格：18歳以上で会場まで自力で参加できる人

博報賞受賞記念 第7回 全国LD親の会公開フォーラム
特別支援教育のネクスト・ステージ

日 時：6月22日(日) 10:00~16:45(開場 9:30)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟・大ホール

<プログラム>

講演 1：特別支援教育の過去・現在・未来

上野 一彦（東京学芸大）

講演 2：特別支援教育の先進的な取り組みとネクスト・ステージ

柘植 雅義（兵庫教育大）

事業報告：発達障害児向けの教材・教具実証研究（文部科学省委嘱事業）

提言 1：特別支援教育の現状と目指すべき方向性

山岡 修（全国LD親の会・会長）

提言 2：国の特別支援教育への取組の現状とネクスト・ステージ

古川 聖登

（前文部科学省特別支援教育課 課長補佐 発達障害支援専門官）

シンポジウム「特別支援教育のネクスト・ステージ」

：幼稚園での事例

秦 昌子（松江市立雑賀幼稚園・教頭）

：通常の学級、通級指導教室での事例

米田和子（堺市教育センター専門指導員）

：外部専門家連携の先進事例

辻 薫（大阪府作業療法士会 発達部門代表）

：学力向上や不登校・いじめ対策などと連携した取り組み

松田裕可（鶴岡市教育委員会）

※LD親の会会員は無料で参加できます。

【問合わせ先】全国LD親の会事務局 TEL:03-6240-0673



年間を通して入会を受付けています

入会金 2000円
年会費 5500円

会員募集



例会、役員会の会場に直接お出かけください。
詳しくは、けやきホームページにてご案内していますのでご覧ください。
賛助会員、通信会員、ボランティア会員も募集しています。

あなたの原稿を募集しています。

機関紙「けやき」は、どなたでも気軽に発信できる紙面をめざしています。

日常の感想、詩、散文、短歌、俳句、川柳、読後感想、書籍紹介、まんが、スナップ写真 等「載せてみようかな」と思ったその時は、どうぞ当編集部へ原稿をお寄せください。お待ちしております

編集後記

多忙な折ご無理をお願いし、原稿をご執筆いただいた方々に大変感謝申し上げます。今号より編集の仕事を担当させていただくことになりましたが、なにぶん勝手が分からず、ご迷惑をおかけすることが多々あるかと思えます。ご容赦ください。どうぞよろしくお願ひいたします。

また、創刊当初より編集に携わっていただいていた井上さん、ご苦労様でした。長い間ありがとうございました。よりよい機関紙作りを目指し努力していきたいと思えますので、今後ご指導ご助言をどしどしお願ひします。

三輪高二